

小中一貫教育推進 グループ G だより

令和 2 年 9 月 8 日

小中一貫に関する児童・生徒のアンケート結果と考察(7月)

《実施概要》

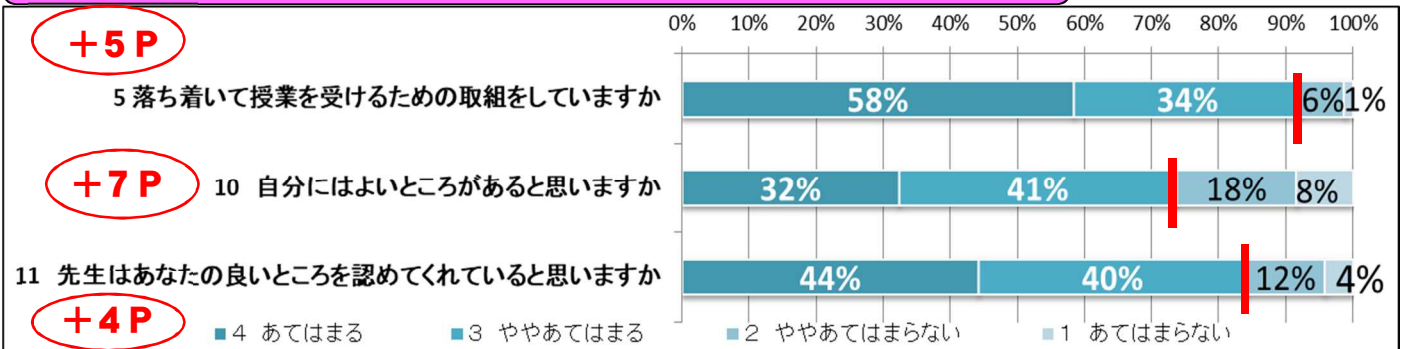
- 目的** 本市立の小学6年生及び中学1年生の意識を把握すると共に、経年比較や同対象の変遷の分析を行い、小中一貫教育の取組の参考に資する。
- 対象** 本市立全小学校6年生（回答数2,884人）、本市立中学校1年生（回答数2,560人）
- 調査期間** 令和2年7月9日～22日

今年度は、学校休業の影響でアンケートの実施時期が遅くなっており、児童生徒の学校生活も例年とは異なるため、昨年度との単純な比較は難しいと考えております。それでも児童生徒の実態の把握をすることで今後の対応につながると判断し、実施いたしました。参考として、各グループの分析にご活用ください。

1 生徒(中1)の結果

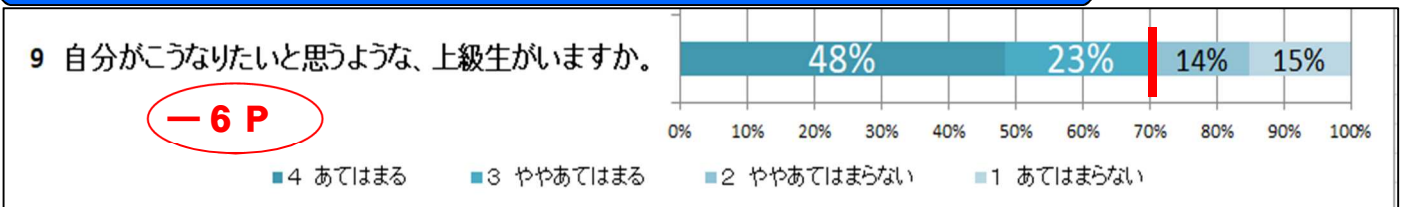
■ 4 あてはまる ■ 3 ややあてはまる ■ 2 ややあてはまらない ■ 1 あてはまらない
 ※「肯定的回答」として捉える

中1 肯定的回答の割合が上がった項目 (R1. 6月と比較)



【考察】 設問 10、11 は昨年度の「中1 6月」の結果と比較するとポイントが上がっている。この生徒たちの半年前「小6 1月」の結果と比較するとほぼ同じ数値であり、高いまま中学校へ移行している。小・中学校の教員が課題を共有し対応してきたことが、小から中へのスムーズな移行につながったと考える。

中1 肯定的回答の割合が下がった項目 (R1. 6月と比較)

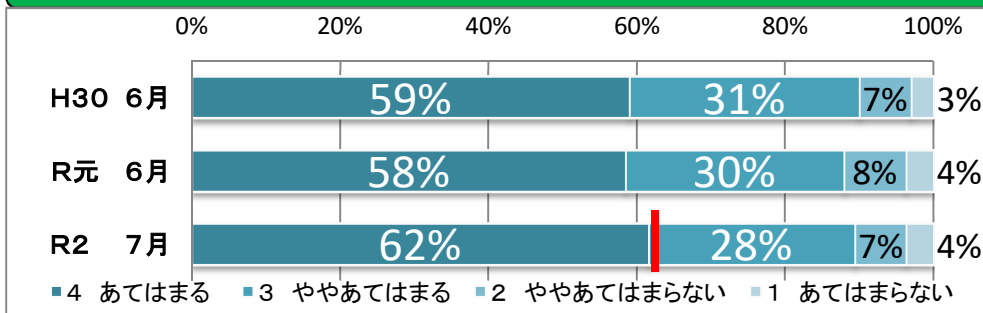


【考察】

今年度は学校休業の影響で授業や部活動ができず、上級生と直接関わる機会が少ない状況であるため、具体的な目指す上級生像が持ちにくいと考える。

2 「楽しみ」「楽しい」に関する結果

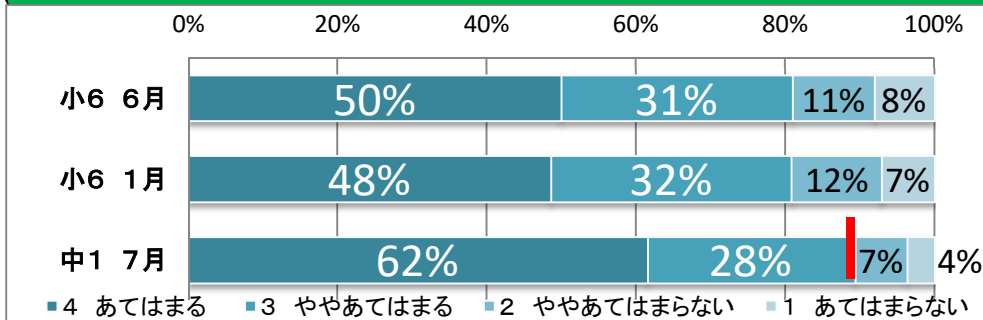
中1：「中学校生活は楽しいですか」（3年間の推移）



【考察】

今年度は例年よりも授業や部活動ができない状況であるにもかかわらず「あてはまる」が多くなったことは、学校休業が明けてやっと訪れた学校生活への喜び等の理由が考えられる。

中1：「中学校生活は楽しみ（楽しい）ですか」（同対象の小6→中1までの推移）



【考察】

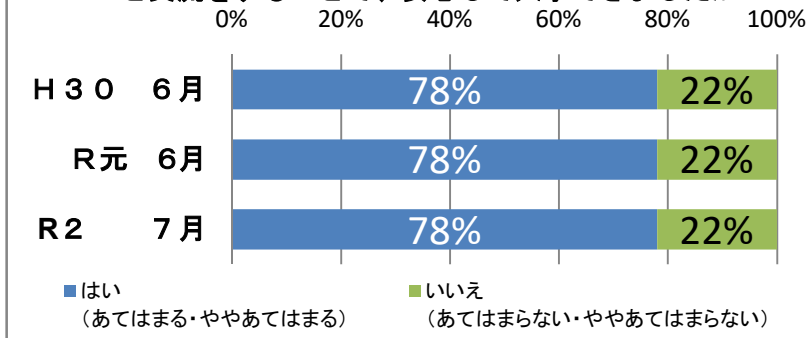
「小6 6月」と「小6 1月」の肯定的回答の割合は変わらないが「中1 7月」に8P高くなっていることから、実際に中学校生活を経験してみると安心して楽しんでいることがわかる。

3 「安心」に関する結果 (3年間の推移)

78%が肯定的回答であるが、その割合は3年間同じ値となった。

また、「安心」に関する他の2項目も、75%が肯定的回答であったが、その割合も3年間同じ値となった。

小学生の時に、中学校の先輩や他の小学校の児童と交流をすることで、安心して入学できましたか



4 成果と課題

【成果】

- 児童生徒の規律への意識、自己肯定感の高まり、学習への主体的な取組等に対する課題や手立てが小・中の教員で共有されていて、小学校での育ちが中学校へ引き継がれていると考えられる。
- 学校休業が長期になっているが、中1生徒が中学校での新しい生活に期待して取り組んでいる様子が見えてくる。
- 中学校入学前には例年不安を感じる傾向があるが、小中一貫教育コーディネーターによる乗り入れ授業や中学校での体験授業、生徒による講話等、児童と中学校の生徒・教諭との直接的なかわりを重視した結果、安心感につながったと考える。また、不安を乗り越え実際の中学校生活を楽しんでいることは、自己肯定感に今後つながっていくと予想される。

【課題】

- 学校休業の影響により、上級生・下級生のかかわりが希薄になることで目指す具体像が持ちにくくなっている。今後、授業や学校生活等への充実感が得られなかったり、進学や今後の生活に期待感を持ちにくかったりすることも予想されるので、各小中一貫グループで手立てを工夫していく。

※学校生活が通常どおりに送れない今だからこそ、小6と中1だけでなく全学年において学習のつなぎや生活面のつなぎを確実にすることが大事です。小中一貫教育グループの各校で現状や課題を共有し、義務教育の9年間で育ちを見通すようお願いします。